



[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集 2008年4月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

記念すべき第10回大会の優勝を勝ち取ったのは橘太鼓「響座」ジュニア!

～第10回日本太鼓ジュニアコンクール～



(選手宣誓)

3月23日(日)、(財)日本太鼓連盟と(社)石川県太鼓連盟の主催、石川県支部の主管により総務大臣杯・文部科学大臣賞第10回日本太鼓ジュニアコンクールを石川県白山市の松任総合運動公園体育館において開催いたしました。全国32都道府県(予選実施31支部340チーム3,986名、支部推薦等4チーム)から選抜された43チーム509名(最年少7才)が出場し、その腕を競いました。

開会式は、優勝旗を持った前年度優勝チームおおむら太鼓連くじら太鼓と特別出演のブラジルチームイビウナ龍舞太鼓を先頭に、全チームが整列して行われました。国歌斉唱に続き、(財)日本太鼓連盟塩見理事長、石川県太鼓連盟飛田会長、元内閣総理大臣・森島連顧問、谷本石川県知事、角白山市長が挨拶。そして、くじら太鼓より塩見理事長に優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと長胴太鼓一鼓(1尺6寸)が贈呈されました。

続いて抽選で出演順1番目となった地元石川県の湯涌ちびっこどきどきを代表して新井海斗君が、力強い選手宣誓を行い、次いで当財団小口副会長による初っ切り太鼓が行われました。出場43チームは、大会要領に基づき小口副会長作曲による課題曲「翔龍(しょうりゅう)」と自由曲を5分以内で演奏しました。2,000席の会場は、2階席まで満席となり、各団体の演奏が終わる度、各チームの頑張りに対して心からの拍手と声援が送られました。

43チームの演奏の後、第4回全ブラジル太鼓選手権大会での優勝チームイビウナ龍舞太鼓が演奏を披露し全ての演奏が終了。閉会式では、渡辺審査員、塩見審査委員長より講評の後、審査結果が発表され、橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎県)が総務大臣杯の栄冠に輝きました。優勝が発表された瞬間、張り詰めた空気から一転、会場から歓声が沸き起こりました。橘太鼓「響座」ジュニアは、9歳から15歳までのメ

ンバー8名で構成されたチームで、2年前に結成した後、毎日2時間の練習を積み重ね見事初優勝に輝きました。また、第8回の優勝チーム輪島・和太鼓虎之介(石川県)が第2位となり、文部科学大臣賞を受賞いたしました。昨年3月25日の能登半島地震以降、練習が思うようにできなかった困難を乗り越え、見事準優勝を果たしました。出場全チームがこれまでの努力の成果を力いっぱい発揮し、共に競い合った一日でした。今回の大会を通じて多くのことを学び、今後の活動に活かしていくことを確信しております。

最後に、長時間に渡り厳正な審査をして頂いた審査員の先生方、開・閉会式でご協力いただいた金沢高等学校吹奏楽部の方々、特別出演のくじら太鼓、イビウナ龍舞太鼓の方々、朝早くから、全国より応援に来て頂いた父兄並びにご来場の皆様、そして石川県支部スタッフ・ボランティアの皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。

審査委員

池田庄作	(財団副会長)
岡田知之	(洗足学園音楽大学学部長)
小口大八	(財団副会長・課題曲作曲家)
塩見和子	(審査委員長・財団理事長)
中西智子	(三重大学教授)
西角井正大	(日本大学大学院講師)
古屋邦夫	(財団技術委員会委員長)
渡辺貞夫	(音楽家) (五十音順・敬称略)



(優勝した橘太鼓「響座」ジュニア)

第11回大会は、静岡県浜松市で開催予定!

次回第11回日本太鼓ジュニアコンクールは、来年2009年3月22日(日)、静岡県浜松市の「アクトシティ浜松」にて開催いたします。

入賞チーム

優勝・総務大臣杯・石川県太鼓連盟会長賞・石川県知事賞・北國新聞社賞

第2位・文部科学大臣賞・白山市長賞

第3位・白山市教育委員会賞

第4位

第5位

橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎県)

輪島・和太鼓虎之介(石川県)

手取亢龍若鮎組(石川県)

尾張新次郎太鼓保存会(愛知県)

大館曲げわっぱ太鼓ジュニア「若杉」(秋田県)

特別賞

①テレビ金沢賞

サスケ(石川県)

②北陸放送株式会社賞

御諏訪太鼓子供会神童太鼓(長野県)

③金沢ケーブルテレビネット株式会社賞

秦野観光和太鼓(神奈川県)

④白山商工会議所賞

岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組(福島県)

⑤松任市農業協同組合賞

比屋根華太鼓(沖縄県)

⑥松任観光物産協会賞

華太鼓かんの会ふじ組(宮崎県)

⑦日本航空金沢支店賞

九谷太鼓若獅子組(石川県)

⑧全日空金沢支店賞

颯太鼓(北海道道南)

⑨北陸三県太鼓協会賞

越中いさみ太鼓保存会飛龍組(富山県)

⑩株式会社浅野太鼓楽器店賞

赤石太鼓保存会(静岡県)

⑪日本財団賞

イビウナ龍舞太鼓(ブラジル)

⑫ブラジル太鼓協会賞

熊本市立必由館高等学校和太鼓部(熊本県)

特別個人賞

川畑嘉朗(山川ツマベニ少年太鼓・鹿児島県)

日伯交流—ブラジル移民100周年記念式典に向けて— ～ブラジル太鼓チームイビウナ龍舞太鼓招聘～

第10回ジュニアコンクールには、4回目となるブラジル代表チームが出場しました。昨年7月にサンパウロで行われた「第4回全ブラジル太鼓選手権大会」のジュニア部門(14団体参加)で優勝したイビウナ龍舞太鼓の12歳から17歳の男女12名と、引率2名の総勢14名が日本財団の支援を得て来日しました。

当日演奏した「大自然」は、昨年ブラジルにおいて渡辺洋一氏(天邪鬼)より指導を受けた曲で、ブラジルの雄大な自然を表現したものです。日本のジュニアチームに匹敵する見事な演奏を披露しました。

メンバーたちは日本のジュニアチームのレベルの高い演奏を目の当たりにしてとても良い勉強となり、今回の経験を今後にかけて頑張りたいとの意欲を示していました。

大会翌日は特別講習会に参加し、渡辺洋一氏から久しぶりの指導を受けることができ、メンバーたちは喜んでいました。長野県では、RAKO華乃井ホテル(諏訪市)に、ブラジル学校の「あしなが学園」約50人の子どもたちを招き演奏を楽しんでもらいました。終了後は、小口副会長に御諏訪太鼓会館に招待していただきました。群馬県では太田市にあるコレジオ・ピタゴラス・ブラジルで250人もの生徒を前に演奏し、熱狂的な歓迎を受けました。

東京では日本財団を表敬訪問し、笹川会長、大野

常務理事よりねぎらいと励ましのお言葉をいただきました。会長より日本についての印象を聞かれ、一人一人緊張しながらも一生懸命答えていました。

東京は、折しも桜が満開でメンバーたちは大喜びで記念撮影をしていました。一行は「太鼓演奏はもちろん、雪や桜に触れるなど素晴らしい経験をさせていただき、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。そして日本で学んだことを生かして6月に行われる1,000人太鼓で頑張りたい」と張り切って帰国しました。



(日本財団を表敬訪問したイビウナ龍舞太鼓)

紙面の都合上、ジュニアコンクール、ブラジル関連の記事は引き続き次号(7月発行)で掲載させていただきます。

■■■■長崎で全国講習会を開催■■■■

〈第31回日本太鼓全国講習会(長崎)〉

2月9・10日(土日)、第31回目の日本太鼓全国講習会を、長崎県大村市のシーハットおおむらにて実施いたしました。九州をはじめ、全国18都府県と台湾からの参加を含め234名が受講しました。

開会式では財団を代表して塩見理事長、全九州太鼓連合から長谷川会長、長崎県支部から村田支部長より挨拶がありました。寒さ厳しい中、受講生たちは元気にバチを振っていました。

○専門講座 講師

三ツ打太鼓講座 河合 睦夫 氏

締太鼓講座 渡辺 洋一 氏

秩父屋台囃子講座 高野 右吉 氏

○基本講座 講師

総合指導 古屋 邦夫 氏

3級基本講座 安江 信寿 氏

4級基本講座 若山 雷門 氏

5級基本講座 松枝 明美 氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

1級検定 15名受験 4名認定(14名合格)

2級検定 25名受験 8名認定(18名合格)

3級検定 28名受験 27名合格

4級検定 71名受験 71名合格

5級検定 51名受験 51名合格



(挨拶をする村田支部長)

日本太鼓が各地で関係団体に協力！

東京マラソン2008を太鼓チームが応援！

2月17日(日)、(財)日本陸上競技連盟、東京都主催、日本財団等の後援による「東京マラソン2008」が東京の大動脈を使用して開催され、昨年引き続き太鼓チームが応援演奏を行いました。

これは東京マラソン特別支援の笹川スポーツ財団より協力要請を受け実現したものです。港区立芝公園で武蔵国府太鼓「響会」(東京都)、星槎国際高等学校太鼓部(神奈川県)、和太鼓琉翔(千葉県)の3チーム59名がマラソンランナーや応援に来た方々、警備の皆さんに演奏を披露しました。当日は突き抜けるような青空の下、響き渡る太鼓の音を追い風とし、約3万2千人のマラソンランナーたちが駆け抜けていきました。



(武蔵国府太鼓「響会」)



(和太鼓琉翔)



(星槎国際高等学校太鼓部)

～競艇優秀選手表彰式典～

2月17日(日)ホテルパシフィック東京において、昨年、顕著な活躍をした競艇選手を表彰する「平成19年度優秀選手表彰式典」(主催:全国モーターボート競走会連合会)が行われました。主催者より当財団に要請を受け、助六太鼓保存会(代表:今泉豊氏・東京都)が、江戸の粋を感じさせる見事なバチさばきで演奏を披露し、競艇ファンを含めた約650名の出席者から盛大な拍手が送られ、式典に華を添えました。

ポルトガル公演 ～国際観光フェアへの招待を受けて～



(世界遺産である王宮前広場での公演)

1月14日から23日にかけてポルトガルに橘太鼓「響座」(宮崎県)を派遣しました。これは、在ポルトガル日本国大使館の原聰大使より国際観光フェアの開催に伴い太鼓公演の要請を受け、実現したものです。リスボン、シントラ、カスカイ市で計6回の公演と1回のワークショップを行いました。ポルトガルは大西洋に面した欧州らしさをふんだんに漂わせた素敵な街です。今回のメインである国際観光フェアでは2日間にわたり公演を行い、2日目は前日をはるかに上回る観客が詰め掛けました。また、ポルトガルの石油王グルベンキアンが設立した美術館で公演、シントラ市では世界遺産に登録されている王宮前広場などで公演を行い、大成功を収めました。多くの方々に日本を代表する伝統音楽である太鼓を聞いていただくことができました。原大使より「今回の公演によって日本に対する現地の意識が高まり、広報活動としても最高の事業で特に国際観光フェアでは大きな成果をあげることができた」とのお言葉を頂戴しました。

今回、初めて海外公演に参加した増田峻典君(9歳)から感想文をいただきました。

「ドキドキしたポルトガル公演」 増田 峻典
「ドキッドキッドキッ」

ポルトガルでの初めての公演が始まる前、ぼくの心ぞうは、どんどん速くなりました。そして、きんちょうすぎて暑くなって汗が出ました。ぼくは、この公演でははじめて竹をたたくことになっていたので、うまくたたけるかとても心配でした。

最初に客せきの後ろから、かたおけ太鼓をたたきながら入って行きました。お客さんは、はじめから大もり上がりで、ぼくはびっくりしました。ぶ台上がり次の曲で心ぞうがさらに速くなり、頭の中が真っ白になりました。でも曲が始まると自然に体が動いてくれました。お客さんのもり上がりにいきおいがついて、とてもたたきやすかったです。

そしてぼくが一番心配だった竹の番がきました。しっかり音がでるようにたたこうと思いました。竹

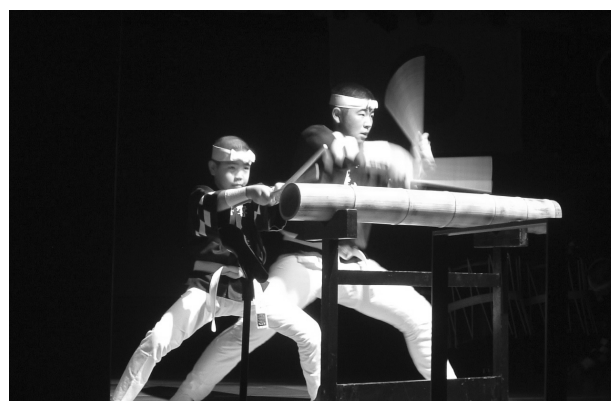
のソロの時、みんながぼくだけを見ているので、最高にきんちょうしましたが一生けん命にたたきました。途中から、響一君が加わると、とても安心してたたくことが出来ました。竹の曲が終わった時にもすごい拍手をもらって、とても気持ちがよかったです。全部の曲が終わり、最後のあいさつをした時お客さんが全員立ち上がって拍手をしてくれました。ぼくは、何とも言えない幸せな気持ちになりました。ぼくは、太鼓を続けてきて心からよかったですと思いました。

ぼくは、このポルトガル公演で向こうの子供たちといっしょに太鼓をたたいたり、太鼓のたたき方を教えたりもしました。言葉はつうじないけど、体の動きだけでつたわりました。すごいなあと思いました。

世界遺産にも行きました。ぼくは、外国のお城をはじめて見ました。すごく大きくてきれいでした。ここでも太鼓の公演をしました。公演の前に塩見理事長が買ってきてくださったやきぐりがすごくおいしかったです。

ポルトガルは、遠かったけどぼくのすきなひこうきにもいっぱい乗ることが出来ました。太鼓だけでなく、いろんな事をはじめて体験する事が出来ました。

塩見理事長、ぼくをポルトガルにいっしょにつれて行ってくださってありがとうございました。本当に楽しかったです。これからもいっしょうけんめいに太鼓の練習をして見ている人を感動させられるような太鼓がたたけるようがんばります。そして3月に行われるジュニアコンクールも一生懸命がんばりたいと思います。



(緊張した演奏・左側が増田君)

<派遣メンバー>

橘太鼓「響座」：岩切 邦光(代表)、岩切 響一
渡邊 義人、酒井 優、吉野 真吾、増田 峻典
(財)日本太鼓連盟：塩見 和子(理事長)
大澤 和彦(事務局長)、印出 公平(事業課長代理)

アメリカ公演 ～障害者メンバーが大活躍！～

1月16日から31日にかけてアメリカ南東部に富岳太鼓(静岡県)を派遣しました。これはノースカロライナ州のトライアングル太鼓(代表：岩島嗣吉夫妻)より日本太鼓普及のための公演およびワークショップ、また知的障害者への働きかけのために知的障害者による太鼓チームの要請を受け、ノースカロライナ州のダーラム、ローリー、シャーロット、ジョージア州のアトランタと併せて12回の公演と2回のワークショップを実施しました。

中でも最終公演を行ったアグネス・スコット大学(アトランタ)では会場からあふれるほどの観客にご来場いただき、会場のドアを開放した状態で演奏を行う盛況ぶりでした。ご出席いただいた小川在アトランタ日本国総領事も日本太鼓の人気を改めて確認されたようでした。知的・身体障害を持つ子どものための学校での演奏は、最初こそ太鼓の音に驚いたものの、次第にリズムに合わせて身体を揺らしたり、より音の振動を感じてもらうために配った風船を抱えて大喜びでした。全ての公演で盛大な拍手とスタンディングオベーションで演奏を称えていただき、大成功で終わることができました。

今回の公演を通じ、日本太鼓の良さを伝えるとともに、療育としての太鼓の意義を伝えられたものと確信しております。

アメリカ公演報告 代表 山内強嗣

富岳太鼓にとって海外公演は22回目、(財)日本太鼓連盟の海外派遣事業では5回、12カ国目の訪問となった今回のアメリカ合衆国のノースカロライナ州、ジョージア州。海外公演は何度行っても初日の公演が終わって、お客様の反応が返ってくるまでは不安で一杯です。

しかも今回は特別な不安を抱えての旅。富岳太鼓メンバーに加え、知的障害を持つメンバー5人が加わって10人の大所帯。また16日の行程中、移動に5日、公演12回、ワークショップ2回という超過密スケジュール。管理責任者としてとにかく事故、病気が無く全員無事に帰国することだけに集中しました。

しかし障害を持つメンバーは公演も生活面でも大きなトラブルを起こすことなく、予想以上に頑張ってくれたことが何より嬉しい出来事です。富岳太鼓メンバーは公演を終え夜遅くホテルに着いてから、疲れた身体に鞭打って障害者メンバーの入浴、洗濯、明日の準備その後自分のことと2人分の仕事をこなし、毎晩ベッドに入る頃は日付が変わっていました。本当にお疲れ様でした。そしていつもながら陰でしっかり支えてくれる、塩見理事長をはじめとする財団スタッフの皆様には感謝の念に絶えません。

今しみじみ思います。今回の成功の鍵はチームワークだったと…。ありがとうございました。

アメリカ合衆国 海外公演を終えて 野田幸宏

アメリカ合衆国「ノースカロライナ州、ジョージア州」にて、1月16日から31日の16日間で、合計12回の演奏と2回のワークショップという大変内容の充実した公演に参加させていただき、本当に感謝いたします。振り返ると、この和太鼓公演を実施

していく上での日々の生活、宿泊場所の確保、バスや飛行機の手配、食事や渡米先での交流、太鼓の輸送と細かいところまで、配慮頂いたからこそ、私たちが公演を実施する事ができたのだと、深く感じています。(財)日本太鼓連盟をはじめ、アトランタ総領事館、トライアングル太鼓チームの皆様には、多大なご尽力を頂き、本当にありがとうございました。私が今回印象的だったことは、アメリカの方たちの和太鼓に対する熱狂振り、そして全ての会場において、超満員のお客様で埋め尽くされたということでした。常にわれわれの演奏を夢中になって聴いていただき、最終日のアトランタのアグネス・スコット大学では、会場内の1階席、2階席だけではお客様が収まりきれず、場内通路や階段に座っている方、さらには会場内には入りきれず、会場外の廊下にまで立ち見のお客様が居て、会場のドアを閉めることができずそのまま公演がスタート、会場内に入れなお客様も多くいらっしゃったと伺いました。

公演がはじまり、曲の間に大きな拍手と歓声が会場内に響き渡り、最後には、会場内にあふれんばかりのお客様がスタンディングオベーション。お客様、興奮状態の中での日本太鼓連盟の塩見理事長の3本締め。行く先々でたいへん好評でした。

このようなすばらしい環境の中で16日間公演を重ねた事は、私自身にとって、とても勉強になり、普段から太鼓に向かう姿勢やモチベーションを高め気持ちを集中し、維持するという事など改めて再認識することができ、大変貴重な経験となりました。

世界には、様々な人種の人間が存在し、中には、障害をもったかたもいらっしゃいますが、日本の和太鼓は、人種、性別、障がいのあるなしに関わらず、誰もが楽しめる楽器であるということを実感したように思います。今後もこの公演にとどまらず、努力していきたいと思えます。

関係各位の皆様、本当にありがとうございました。



(ノースカロライナ州ダーラムでの公演)

<派遣メンバー>

富岳太鼓：山内 強嗣(代表)、早野 均、野田 幸宏
福田 智恵美、福田 尚美、大竹 肇、大川 登志夫
石原 純、久保田 真喜、小熊 華代

(財)日本太鼓連盟：塩見 和子(理事長)

中西 由郎(常務理事)、秋田 稔(総務部長)

成瀬 靖子(事務局)

カンボジア公演

～ 2006年度のラオス・ベトナムに引き続き、障害者に対する意識向上に大きく貢献～

2月20日から3月3日にかけてカンボジアの首都プノンペンに、甲州ろうあ太鼓(山梨県)を派遣しました。これは、2006年度のラオス・ベトナム公演に続き、日本財団が障害者に対する意識改革と啓蒙活動を行う事業を実施することとなり、太鼓チームの派遣協力の要請を受け実現したものです。プノンペンで7回の公演と3回のワークショップを行いました。

派遣チームとしては、聴覚障害者を希望されたため、昨年に続き甲州ろうあ太鼓(山梨県)を派遣することとしました。

今回の公演には、カンボジア王室からも多くの王族にご臨席いただきました。また、23日の国際芸術祭と25日のアマチュア芸術祭では笹川会長を始め、日本財団の関係者も出席されておりました。

太鼓を通じて、アジア諸国に根付く障害者に対する偏見を、障害者の芸術チームの公演を実施することにより一般国民に対し、障害者の地位向上を訴えるとともに、障害者自身にも意識の向上を図ることができました。

カンボジア公演を振り返って

井上 直光

私たちは、カンボジア公演を、(財)日本太鼓連盟から要請されて行ってきました。この公演は2006年度に実施された、ラオス・ベトナム両国における身体障害者に対して、理解を広めるための啓蒙・啓発運動を目的とした同じ内容のステージです。

今年は例年に無く寒さ厳しい冬でしたが、この厳寒の日本から早く逃れたいと、はやる気持ちをせきたてられるように成田を発ちました。首都プノンペン空港に降り立った時の暖かさに、それまでこわばっていた筋肉の緊張がフッと緩み、頬をなぞって吹き抜ける風にホッとする思いでした。

今回の公演は、地元で活動しているNGOエピック・アーツを日本財団が支援して実現しました。障害者による国際芸術祭「スポットライト」は23日を皮切りに8日間プノンペン市内で実施され、初日の開会式は、メコン河とトンレサップ河が合流する河畔に建つチャトモック劇場でした。この日の主賓であるポバ・デヴィ王女(元文化芸術大臣)を始め各界の名士、日本財団からは笹川会長、幹部の方々にご覧いただきました。このようなVIPの方々の前でたいへん緊張しましたが、打ち始めると何時ものペースに戻り大きな拍手をいただき安堵しました。この他、ストリートチルドレンをお世話する施設や、ワークショップ等でステージを努めさせていただきました。ワークショップでは塩見理事長に音頭をとっていただき、希望者はステージに上がって講習会に使用する5級の楽譜でレッスンしました。参加した聴覚障害者に太鼓の音を理解してもらう為に風船を抱いてもらって、太鼓の違いにより風船はそれぞれの音に反応し、中には脅威のあまり飛び上がる人もいました。障害者から健常者、子供から大人まで大勢の方々に参加していただき、日本の太鼓を満喫して

もらえました。26日は日本大使館が主催となって、「日本・カンボジア友好年2008」と銘打っての公演でしたが、この時もカンボジア王室から複数名お越しくいただきました。他、現地政府高官や各国大使館、業界人、日本語を学ぶ学生などが招待されたそうですが、招待席の周りは、太鼓の音を聞いてバイクで駆けつけた地元のギャラリーに囲まれて大盛り上がりでした。カンボジアとの友好の輪に参加でき、低い鼻が少し高くなったように感じました。翌日、大使館をとおして王室より、メンバー全員にお土産が届けられましたが、こんな事は異例なことではないかと思われ、たいへん名誉に思いました。

前回のラオス・ベトナム、そして今回のカンボジア、いずれも街が活気に満ち溢れていました。日本人はかつての勤勉さを見失い、ぬるま湯に浸っているような現状を思うとき、発展途上国の人々に追い越されてしまうのではないかと危機感を感じました。それに国際化国際化と言いつつ、いまだに鎖国時代を引きずっているかのような現状をみる一方、彼の国の若者たちは自国語以外の言語を習得して、外国人と様々な活動を行っていました。How matchとDiscountしか言えない自身にとって反省!! 長い間戦争、内戦で大変な思いをしてこられたこれらの国々が、ずーっと平和であることを願わずにはいられません。そしてどうしても同じ障害仲間である聴覚障害者に目を向けてしまうのですが、彼らの世界に日本の太鼓が普及して、共に楽しみ共演できたらと念じてやみません。

最後に、この長期間に渡って休暇を認めてくださった会社、同僚のみなさん、このような貴重な機会を与えてくださった(財)日本太鼓連盟、及び日本財団に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



(一番左側がポバ・デヴィ王女)

<派遣メンバー>

甲州ろうあ太鼓：桜木 力(代表)、井上 直光
瀧口 寛光、長田 和久、山口 龍太、瀧口 正浩
狐塚 亮、杉山 悠美、小野 智弘(マネージャー)
(財)日本太鼓連盟：塩見 和子(理事長)
大澤 和彦(事務局長)、印出 公平(事業課長代理)
黒木 奈都子(事務局)

2008年度に向けて各種会議を開催 ～理事会・評議員会・運営委員会・技術委員会～

＜理事会・評議員会＞

第21回理事会・第20回評議員会が3月12日に開催され、次の事項が審議、承認された。

1. 「2007年度収支予算の一部変更について」
2. 「2008年度事業計画及び収支予算について」
3. 「支部の開設について」

＜運営委員会・技術委員会＞

第32回運営委員会・第29回技術委員会が1月11日に開催され、次の事項が審議、承認された。

1. ①「2007年度事業経過報告」
②「日本太鼓ジュニアコンクールの実施について」
2. 「2008年度事業について」
2007年度に実施した財団創立10周年記念事業を除き、昨年と同様に事業を計画した。なお、助成金交付事業は、35事業計画に対し、27事業が承認され残り8事業を追加募集することとなった。
3. 「日本太鼓資格認定制度について」

・公認指導員の昇級と認定について

2級公認指導員昇級候補者である今池薫氏(北海道)並びに3級公認指導員昇級候補者である春原夕紀氏(長野県)の両氏について審議し、全員一致で承認された。

・公認指導員の推薦について

北海道道東支部より推薦のガイドラインに達したことから、3級公認指導員に推薦のあった2名については、講習会で指導力を確認後、承認することとした。

4. 「海外における資格認定の取扱について」

海外での資格認定者の取扱について次の条件を満たす場合は相互にその資格を認めることとした。条件は以下のとおり。

(1) 海外における検定試験は、当財団の定める日本太鼓資格認定規定に準じて行い、当財団の認める公認指導員により行われること。

(2) 同試験を合格し、認定を受けた者は、その国の太鼓組織による認定番号を保持し、その証明できる書類を提示すること。

＜技術委員会＞

第30回技術委員会が3月23日に開催され、次の事項が審議、承認された。

1. 「日本太鼓ジュニアコンクールについて」

出場団体への講評に関して、各チームの演奏内容等の結果のとりまとめを行った。

2008年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

運営委員会において、次の27事業が承認されました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。

＜支部講習会＞

6月7・8日(土日)	北海道道東支部	釧路市生涯学習センター	北海道釧路市
9月20・21日(土日)	北海道道北支部	永山市民交流センター	北海道旭川市
10月25・26日(土日)	埼玉県支部	ヌエック国立女性教育会館	埼玉県嵐山町
11月15・16日(土日)	三重県支部	ロワジュールホテル	三重県四日市市
2009年3月14・15日(土日)	東京都支部	日本財団ビル	東京都港区

＜ジュニアコンクール予選＞

11月15日(土)	宮崎県支部	宮崎市民文化ホール	宮崎県宮崎市
-----------	-------	-----------	--------

＜教職員太鼓研修会＞

6月14日(土)	栃木県支部	こなら館	8月3日(日)	長崎県支部	波佐見町農村環境改善センター
6月15日(日)	宮崎県支部	宮崎市民文化ホール	8月21日(木)	山梨県支部	創造館アミカル
6月22日(日)	岐阜県支部	大垣市農村環境改善センター	8月21・22日(木金)	島根県支部	三刀屋文化体育館
7月6日(日)	青森県支部	河西体育センター	9月23日(火祝)	長野県支部	御諏訪太鼓会館
8月2日(土)	群馬県支部	甘楽町文化会館	11月16日(日)	岩手県支部	水沢総合卸センター

＜その他＞

4月6日(日)	佐賀県支部	第2回合同コンサート	佐賀市文化会館
4月20日(日)～28日(月)	石川県支部	和太鼓海外普及公演(アメリカ)	アメリカオハイオ州他
5月～8月(計4回)	広島県支部	和太鼓体験交流会	国営備北丘陵公園
6月8日(日)	東京都支部	荏原流れ太鼓ひびき会30周年記念公演	大田区区民ホール
6月22日(日)	広島県支部	広島県太鼓ライブ	東城町老人福祉センター
6月28・29日(土日)	台湾太鼓協会	台湾太鼓講習会	泰山体育館
7月6日(日)	北海道道南支部	北海道洞爺湖サミット応援事業「北響祭'08」	中央埠頭第三倉庫
7月19・20日(土日)	富山県支部	北陸三県雷童サマースクール	南砺市福光里山体育館
7月26・27日(土日)	大分県支部	和太鼓夏期講習会inゆふいん	湯布院自然の家
11月22・23日(土日)	サンフランシスコ太鼓道場	国際太鼓祭り	パークレー大学
2009年1月12日(月祝)	鹿児島県支部	第3回全九州日本太鼓ジュニアコンクール	川内文化ホール

★助成金交付事業 8事業を追加募集★

助成金交付事業は、1事業助成金20万円となっております。現在8事業の追加募集を行っております。希望される支部は、財団事務局までお問合せ下さい。

(財)日本太鼓連盟 TEL.03-6229-5577 FAX.03-6229-5580 メール: info@nippon-taiko.or.jp

「知的障害者が描くピュア・アート・コレクション」開催

1月15日(火)～18日(金)、東京都港区日本財団ビル1階で「社会福祉法人富岳会 知的障害者が描くピュア・アート・コレクション」が開催されました。

静岡県御殿場市にある富岳会を利用する知的障害者の個性あふれる伸び伸びとした絵を多くの方に観賞していただきました。絵画を出展された方の中には、富岳会太鼓チームで太鼓を打っている人もおります。このように、太鼓療育と絵画療育が障害者の自信と自立心を高める手助けになっています。

出展作品は60作品、4日間で342名のお客様に会場いただきました。



(会場の様子)

事務局だより

新たな支部開設が理事会で承認

3月12日に開催された第21回理事会において、大阪府支部(岡田 博勝支部長)、岡山県支部(小山 寛支部長)、香川県支部(石井 修三支部長)の3支部の開設が承認されました。四国は今回の香川県が初の支部開設となり、これで40都道府県に44支部が設置されました。

講習会のお知らせ

第32回日本太鼓全国講習会(宮城県七ヶ浜町)

期 日：2008年5月31日・6月1日(土日)

主 催：(財)日本太鼓連盟

主 管：(財)日本太鼓連盟宮城県支部

会 場：七ヶ浜町町民体育館(宮城県七ヶ浜町吉田浜字野山1-2)

講 座：○専門講座

大太鼓講座(単式単打法) 山 内 強 嗣 氏(静岡県)

秩父屋台囃子講座(複式複打法) 高 野 右 吉 氏(埼玉県)

八丈太鼓講座(単式複打法) 菊 池 修 氏(東京都)

○基本講座

総合指導 古 屋 邦 夫 氏(技術委員会委員長)

3級基本講座 鈴 木 孝 喜 氏(1級公認指導員)

4級基本講座 渡 辺 徳 太 郎 氏(1級公認指導員)

5級基本講座(初心者講座) 松 枝 明 美 氏(1級公認指導員)

申込先：(財)日本太鼓連盟宮城県支部 〒987-0621 宮城県登米市中田町宝江黒沼字蓬原51-4

事務局長：片岡 大助 携帯電話 090-2970-8342 Fax.0220-34-2450

第39回日本太鼓支部講習会(北海道釧路市)

期 日：2008年6月7日・8日(土日)

主 催：(財)日本太鼓連盟北海道道東支部

会 場：釧路市生涯学習センター(釧路市幣舞町4-28)

講 座：基本講座

総合指導 古 屋 邦 夫 氏(技術委員会委員長)

4級基本講座 渡 辺 洋 一 氏(1級公認指導員)

5級基本講座(初心者講座) 塚 原 鼓 童 氏(1級公認指導員)

申込先：(財)日本太鼓連盟北海道道東支部 〒085-0811 北海道釧路市芦野3-27-6

事務局長：田中 宏明 電話 0154-36-6453 Fax.0154-36-6453

携帯電話 090-2694-5146 メール：ku4622@city.kushiro.hokkaido.jp